

4 - 5 駿河湾地殻深部構造について (中間報告)

Structure of the Suruga Trough from Multichannel Seismic Reflection Profiling (Preliminary Report)

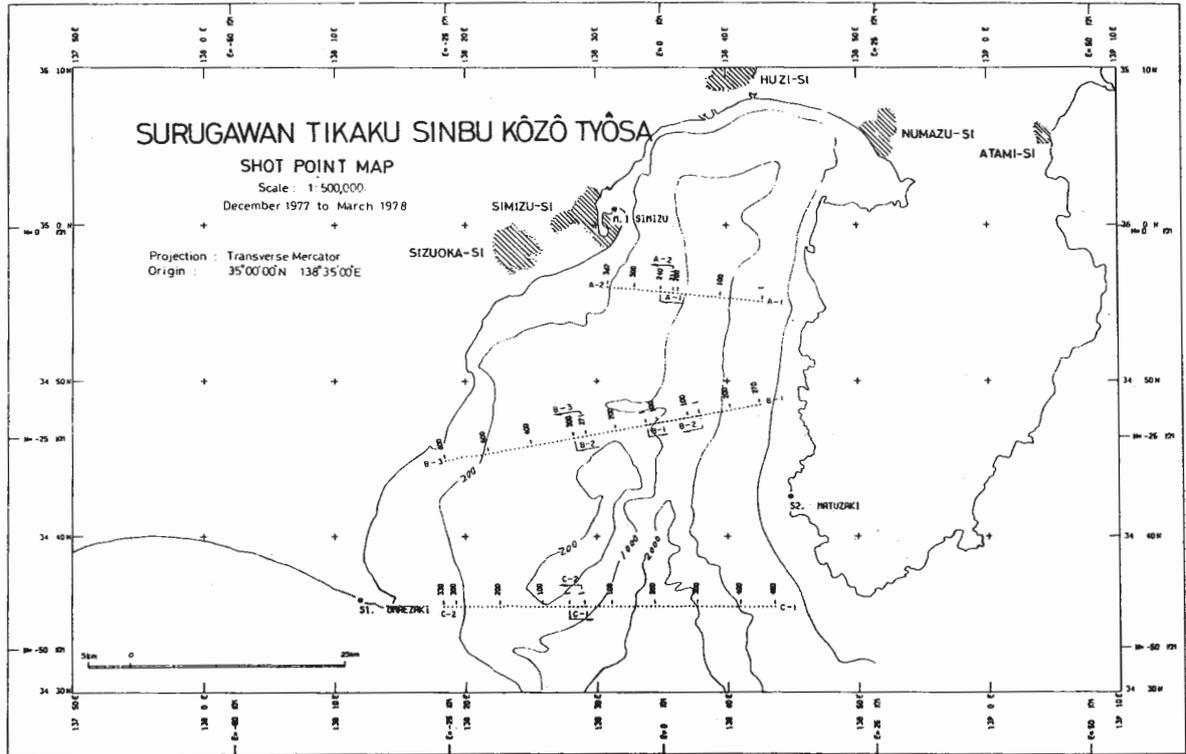
海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和 53 年 1 月、海上保安庁水路部は、東海地域の地震予知に関する総合研究の一環として、駿河湾の地殻深部構造をマルチチャンネルによる反射式音波探査（共通反射点 24 重合）によって調査した。調査した測線は、静岡 - 土肥、大井川 - 田子、御前崎 - 石廊崎の 3 本、延べ約 94 km の区間である（第 1 図）。

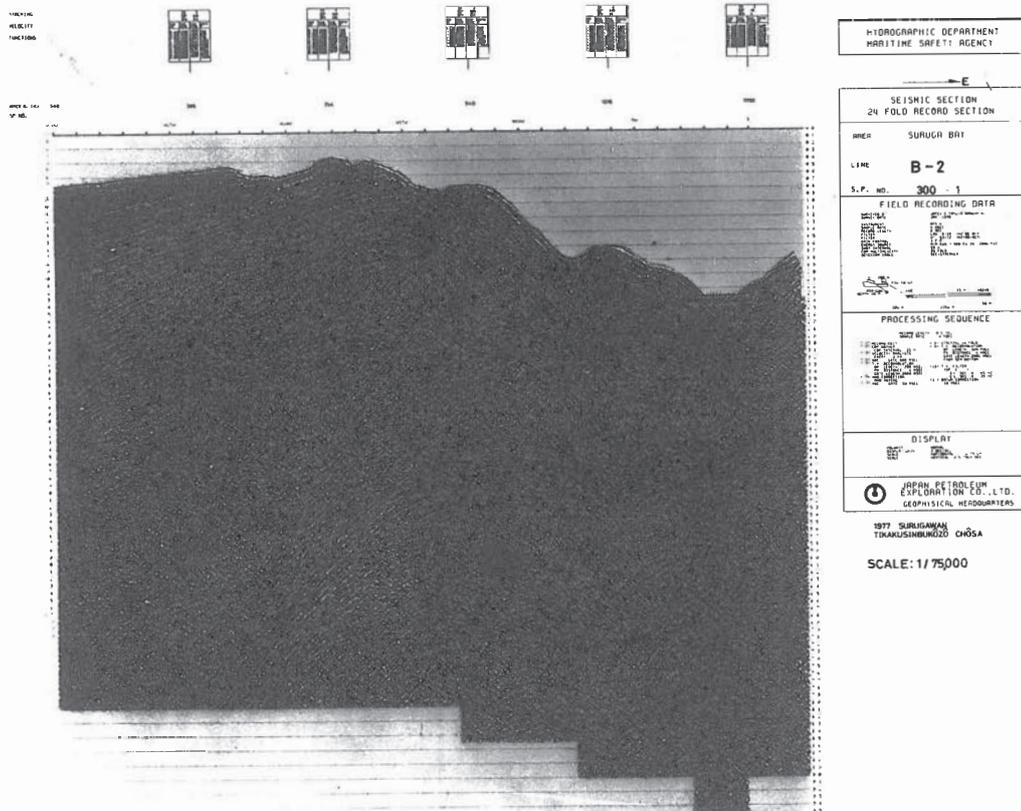
調査の結果、海面下 13 ~ 14 km までの音響的な地質構造に関する音波探査プロファイルを得た（第 2 図）。

予察的な解釈からつぎのような事柄が明らかとなった（第 3 図）。①トラフ軸は主な反射面の向斜状構造の中心、あるいは連続性の不明瞭な位置にあっており、石花海の東側は断層と見られる。②静岡側の大陸棚外縁付近には、各測線とも比較的明瞭な断層が解釈される。③重合処理のため行なった速度解析によれば、1.5 ~ 4 km の地層を含んでいる。④三陸沖などで明らかにされたような、海岸プレートのもぐり込みは認められていない。（桜井 操）



第1図 発音点図

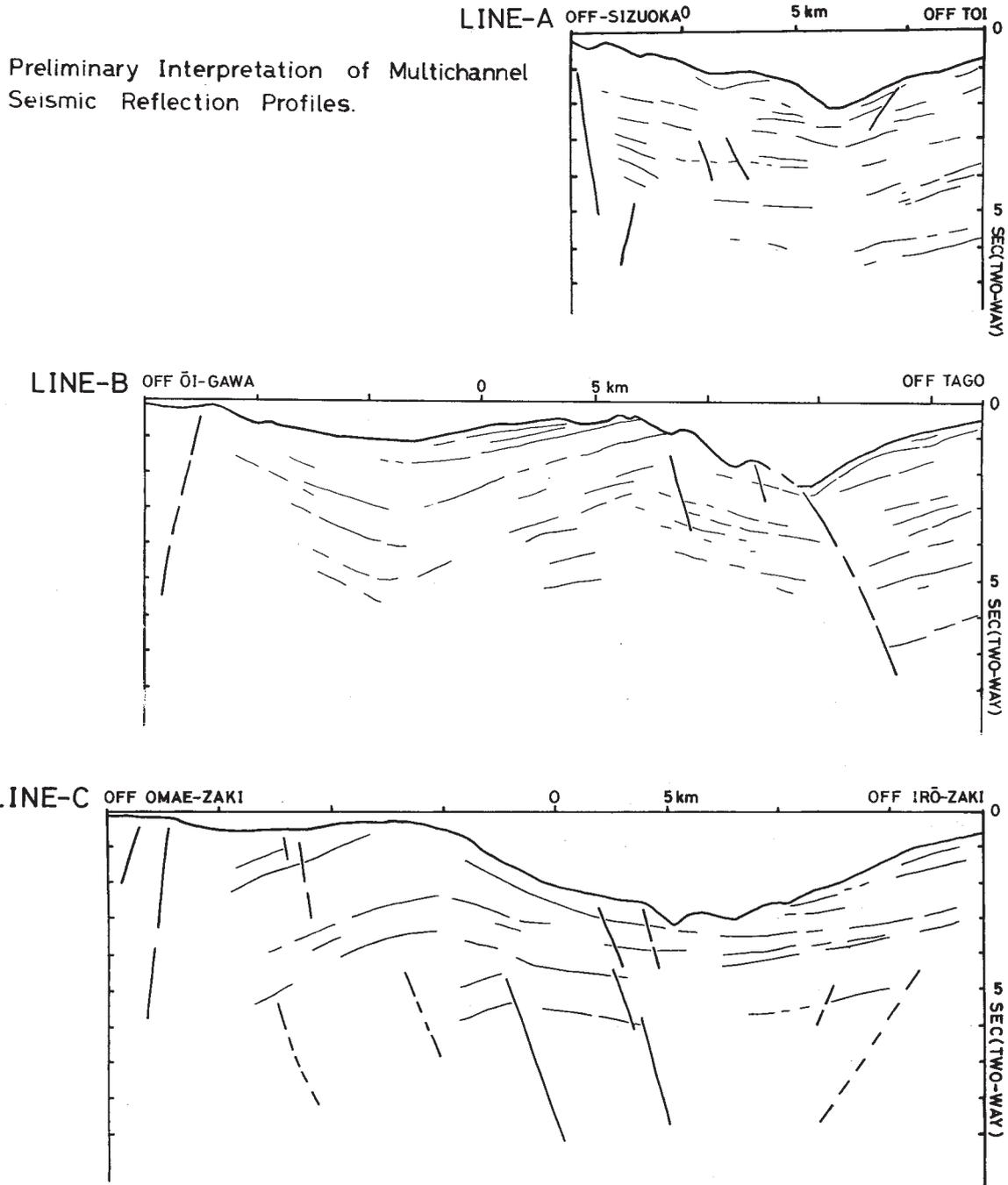
Fig. 1 Shot Point Map.



第2図 マルチチャンネル サイズミックプロファイル (B-2)

Fig. 2 Multichannel Seismic Reflection Profile (B-2).

SURUGA-WAN TIKAKU SINBU KÔZÔ TYÔSA
 (Surveyed in January 1978)



第3図 プロファイルの予察的な解釈
 Fig. 3 Preliminary Interpretation of Seismic Profiles.